



令和5年
近畿歴史まちづくりサミット in 宇治市

式次第 (敬称略)

1. 開会の辞 宇治市長 松村 淳子
国土交通省 近畿地方整備局長 見坂 茂範
2. 源氏物語朗読劇『紫さんを待ちながら』
宇治っ子朗読劇団☆Genji
3. 休憩
4. 基調講演
「みちと街区がつくり出す
長浜・湯浅・宇治のまちの個性」
京都工芸繊維大学教授 清水 重敦
5. パネルディスカッション
コーディネーター：京都工芸繊維大学教授 清水 重敦
パネリスト：長浜市長 浅見 宣義
湯浅町長 上山 章善
宇治市長 松村 淳子
テーマ1 「みちの視点から見たまちの成り立ち」
テーマ2 「まちの記憶を未来につなぐーこれからのまちづくり」
6. 記念撮影
7. 次回開催都市挨拶 長浜市長 浅見 宣義
8. 閉会



令和5年 12月2日 土 13:30~16:00
(開場12:30~)

会場 宇治市文化センター 小ホール
(〒611-0023 京都府宇治市折居台1丁目1番地)

主催：国土交通省近畿地方整備局・宇治市 協力：一般社団法人近畿建設協会



第7回

サミット in 宇治市
近畿歴史まちづくり

「まちの記憶を未来につなぐ」

登壇者プロフィール(敬称略)

○ 源氏物語朗読劇『紫さんを待ちながら』

宇治っ子朗読劇団☆Genji

小学生～高校生の子どもたちが参加して、難しいと敬遠されがちな古典をわかりやすく楽しい朗読劇にし、市内外の催物で練習成果を発表しています。

昨年度は若者の古典文化活動を顕彰する「令和4年度古典の日文化基金未来賞」を受賞しました。



あらすじ

時は平安時代。紫式部と呼ばれた女性が、当時権勢をふるっていた藤原道長の娘・彰子の女房として宮中に仕えながら、大長編小説を執筆していました。それが『源氏物語』です。紫式部の同僚の女房たちも『源氏物語』の大ファンで、それぞれが推しのキャラクターを名乗っています。藤壺さん、葵さん、六条さん、末摘さん…さらに新人の女房たちも加わって、お気に入りの場面を演じて楽しみながら、物語の続きが書き上がるのを「もういいかい?」と、待っているのです…。

原作／紫式部『源氏物語』

脚本・演出／中田達幸

○ 基調講演

「みちと街区がつくり出す 長浜・湯浅・宇治のまちの個性」



清水 重敦

京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系教授

昭和46年生。平成11年より独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所に在籍し、宇治の文化的景観の調査等に携わる。同研究所景観研究室長を経て、平成24年9月京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授となり、平成29年1月から現職京都工芸繊維大学デザイン・建築学系教授を務めている。宇治市文化的景観検討委員会委員及び宇治市歴史的風致維持向上協議会委員を兼職。

○ パネルディスカッション

テーマ1 「みちの視点から見たまちの成り立ち」

テーマ2 「まちの記憶を未来につなぐーこれからのまちづくり」

【コーディネーター】 清水 重敦

【パネリスト】



長浜市長
浅見 宣義



湯浅町長
上山 章善



宇治市長
松村 淳子

